



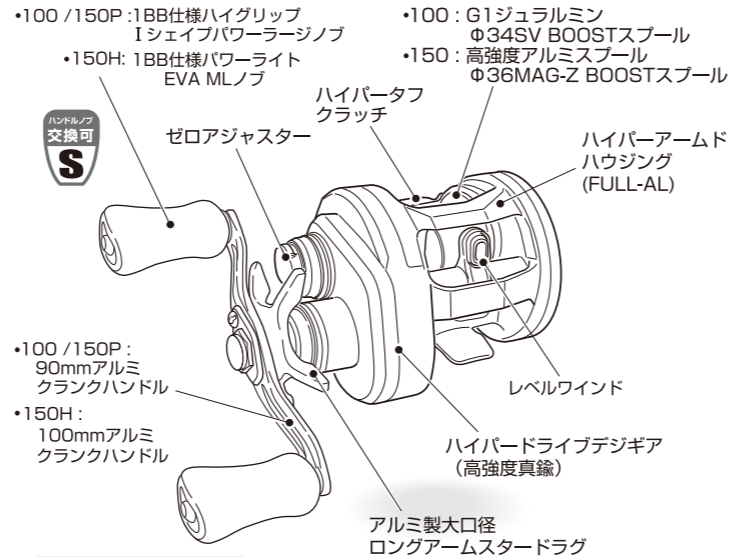
HYPERDRIVE DESIGN

RYOGA

取扱説明書

●各部の名称と操作方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

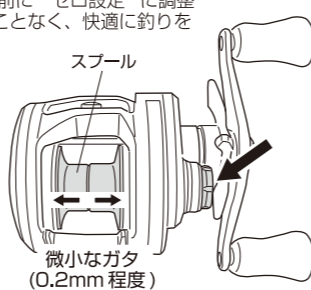
この度はRYOGAベイトキャストリールをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。本製品は、高い初期回転性能が長く続くことを目指した設計思想「HYPERDRIVE DESIGN」を採用しています。HYPERDRIVE DIGIGEARでは滑らかな回転を提供することで、より快適なルアーフィッシングを楽しんでいただくことができます。さらに100:SV BOOST/150:MAG-Z BOOSTを採用し飛びを追求しました。このリールを正しくご使用頂くために、ご使用になる前にこの説明書をよくお読みください。また、リール同様この説明書も大切に保管していただきますよう、お願い申し上げます。



●ブレーキ設定方法

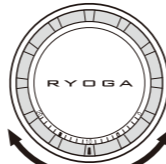
●はじめに“ゼロアジャスター”を調整し、“スプールガタゼロ”設定を実施してください。

- “ゼロアジャスター”は、釣りを開始する前に“ゼロ設定”に調整することで、釣りの間に誤作動が起こることなく、快適に釣りを楽しく頂くための機構です。
“スプールガタゼロ”設定とは、スプールの押し合いギリギリの設定のごとで、微小なガタつき(0.2mm程度)を残した状態のごとです。
本リールは、出荷段階でスプールポジションを“ゼロ”設定にセットして出荷させていただいております。
※クラッチを切った状態でスプールの挟み上下に2つの指でしっかり掴むと、ガタつきの状態が把握しやすくなります。
“ゼロアジャスター”は、時計回りで締め、反時計回りで緩みます。



●マグネットブレーキの進化により全てのルアーをマグダイヤルのみで制御することが可能です。

- “スプールガタゼロ”の設定で、マグダイヤルの目盛りに委ねてください。
・数値が大きいとブレーキ力は大きくなり、数値を下げるとブレーキ力も小さくなります。
・慣れるまでは



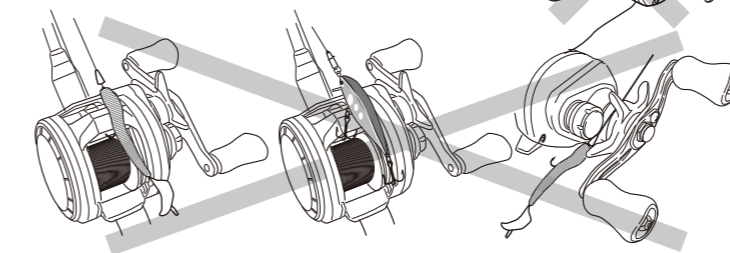
- ①マグダイヤルの目盛りを最大にしてお使いください。
②慣れるに従って、徐々にマグダイヤルを下げていきます。バックラッシュ気味になる一つ手前の目盛りが、その時の条件に合った最適なセッティングです。
③半分以下(目盛り10)の数値のゾーンまで下げていく場合は、必ずひと目盛りずつ下げます。
※マグダイヤルの数値が小さいと、ブレーキ力はかなり微小です。いきなり下げ過ぎるとバックラッシュが発生しますので充分ご注意ください。
※もちろん、サミングを併用することで更にブレーキを落とす(より小さい目盛りで使う)ことが可能です。
※マグダイヤル目盛りが最大でもブレーキ力が足りないと感じた時に、ゼロアジャスターを少し締めてお使いいただく、補助ブレーキの役割を果たします。
※PEラインは比重が小さいので通常フロロカーボンラインでの設定の50%~70%前後のダイヤル目盛りでお使いいただくことと快適です。

【注意】

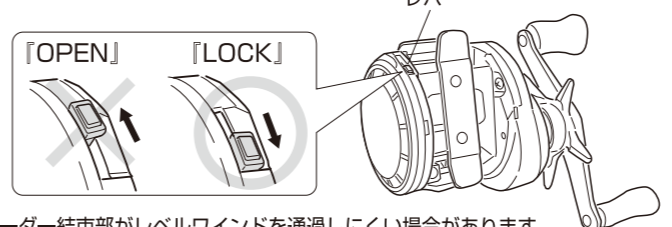
- ・ゼロアジャスターを“ゼロ”より締めて使うと、本リールが有している“高レスポンスなスプール性能”を損ね、飛距離ダウンが発生します。また、更に締め込み過ぎた状態で使い続けると、中のシャフトが焼きつきを起こし、「キーン」という異音が発生するケースがあります。
・一方で“スプールガタゼロ”状態より大きく緩んだ状態で使用すると、キャスト時のスプールの振れが大きくなるために、リール本来のマグネットブレーキの性能が不安定になり、ノイズの発生のみならず、飛距離ダウンやバックラッシュ発生の原因となります。更に緩め過ぎた状態では、スプールとフレームが干渉し、傷を発生させてしまいます。
・本リールの持つ性能をフルに発揮させるためにも“スプールガタゼロ”設定でご使用いただくことを強くお勧めします。緩めすぎや締め過ぎはお薦めできません。

●取扱い・保管上の注意

- ・ラインガイドを手で無理に動かさないでください。破損のおそれがあります。
・ルアーやワームをリールに引っ掛けるのはおやめください。リールを傷つけたり、糸が傷ついたりするおそれがあります。

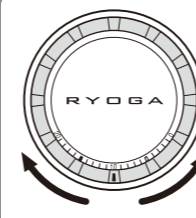


・リールを使用する際には、サイドプレートを開閉するレバーが「LOCK」状態であることを確認してください。「OPEN」状態でご使用されると実釣中にサイドプレートとスプールが本体から外れるおそれがあります。



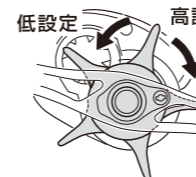
- ・リーダー結束部がレベルワインドを通過しにくい場合があります。結束部はロッドのガイドより外側に出すことをお薦めします。
・超薄肉スプールの為、落下などの衝撃で変形してしまうと、スプール性能が発揮されなくなります。お取り扱いには十分ご注意ください。
・糸を巻く際は、リール本体に糸が触れないようにご注意ください。フロントカバーやフレームに糸が当たると、糸やリール本体が傷つくおそれがあります。

●マグダイヤル



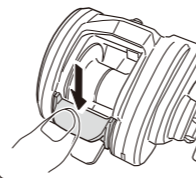
●サイドプレート部のダイヤルを指で押さえて、左右に回転させるように動かしてください。20段階(MIN=0、MAX=20)の調整が可能です。■マークを目盛り数字に合わせるようにして調整を行います。0方向に回転させると、ブレーキ力は弱くなり、20方向へ回転させるとブレーキ力は強くなります。

●ドラッグ調整方法 (※図は右ハンドルモデルです。)



●右ハンドルモデルの場合、時計回りに回せばドラッグ設定は高くなり、反時計回りに回せばドラッグ設定は低くなります。(左ハンドルモデルは逆になります)使用ライン、釣種に合わせて調整を行ってください。

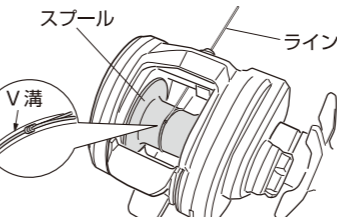
●ハイパータフクラッチ



●親指で軽く下に押すだけで、クラッチが切れ、スプールはフリーの状態になります。親指でクラッチとスプールの同時に押さえることができるので、すばやくキャストできます。

●スプールへの糸の結び方 (※図は右ハンドルモデルです。)

・図のようにスプールセンターのV溝に結びコブを入れます。(結び目は完全には納まりません。)

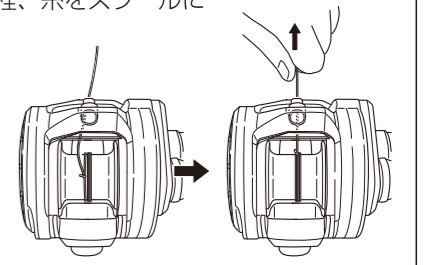


※テープで固定するのはおやめください。テープで固定するとスプールの回転バランスが崩れ、「ブーン」、「キーン」といった異音が発生します。

- ・最大ドラッグ力の範囲内での使用をお薦めします。過度なドラッグを掛けた状態での使用は、このリールの適正使用条件を強度的に大きく超えますのでおやめください。
・輸送時に強い負荷がかかると、ハンドル等の部品が変形するおそれがあります。梱包状態や取り扱いには十分ご注意ください。
・保管の際は必ず竿から取り外してください。
・リールを長期間(数ヶ月以上)ご使用にならない時は、リール作動部を時々動かすことをお薦めします。
・ドラッグ付リールは、釣行後にドラッグを緩めて保管してください。ドラッグをきつく締めたまま保管すると、ドラッグワッシャーが濡れ、性能が低下します。
・通気性の良い直射日光のあたらない場所で乾燥させてから保管してください。濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間(自動車のトランク、ダッシュボード等)に長時間放置されますと腐食を起こす可能性があります。
・海水で糸が濡った状態のまま保管するとスプールが腐食するおそれがあります。巻糸部にあたるように水道水を掛けて海水を十分流してから乾燥させてください。
・水気を含んだ糸を強い張力で巻いた状態でリールを保管しないでください。保管時に糸が乾燥すると縮み、スプールの破損するおそれがあります。
・発熱器具のそばに置かないでください。樹脂が溶けて変形したり劣化して、故障の原因になります。
・リールの上に乗ったり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。
・海水の中に長時間放置しないでください。
・釣り餌が付着した状態で長時間放置をしないでください。
・根掛かりした時に、スプールの指で押さえた状態で糸を切ることはおやめください。スプール変形の原因になります。

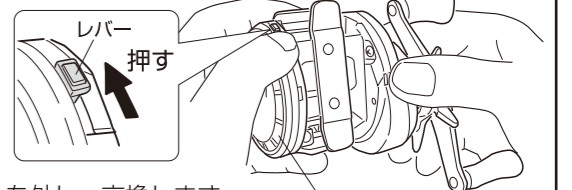
●スプールにPEラインを巻きはじめる時の結び方

- PEライン使用に際しては、糸がスプールから空転するのを防止する為、3回から5回程、糸をスプールに巻きつけた後、しっかりと結び付けてください。また、結び付けた後、強く引っ張っても糸がスプールから空転しないことを確認した後、糸巻きを開始してください。

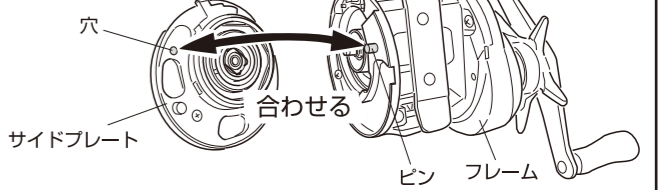


●スプール交換方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

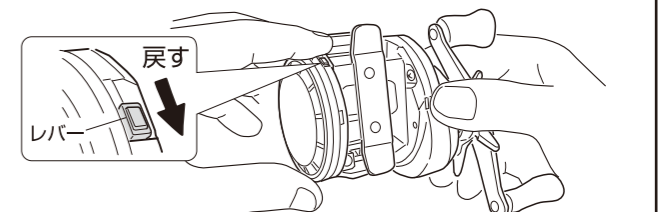
- 1 サイドプレート外側のレバーを押し、サイドプレートを外します。
※スプールの指で押さえながら外してください。押さえないと、サイドプレートと一緒にスプールが外れてしまいます。



- 2 スプールの外し、交換します。
3 取り付けの際は、フレームのピンとサイドプレートの穴を合わせます。



- 4 レバーを「カチッ」と音がするまで元の位置に戻します。



●安全上の注意

- ①糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて釣りをしないでください。怪我をするおそれがあります。
②糸が勢いよく出ている時は、糸に触れないでください。糸で指を切るおそれがあります。
③糸が勢いよく出ている時は、スプールの上に指を置かないようにご注意ください。火傷や、指をはさんで怪我をするおそれがあります。
④キャストの時にはクラッチを切るのを忘れないでください。仕掛けが出て行かず、怪我をするおそれがあります。
⑤ハンドルとボディの隙間に指・衣服等が挟まると大変危険です。怪我をするおそれがありますので、取扱いには十分注意してください。
⑥超薄肉スプールの為、スプールエッジ部が鋭利になっており、特に濡れた手で触れると怪我をするおそれがあります。指などを切らないよう十分注意してください。
⑦リールはリールシートにしっかり固定してご使用ください。ガタつきがある場合や固定できない場合は、ご使用を控えてください。釣行中に外れたりすると、怪我をするおそれがあります。
⑧乳幼児の手の届く所には置かないでください。予期せぬ事故や怪我につながるおそれがあります。

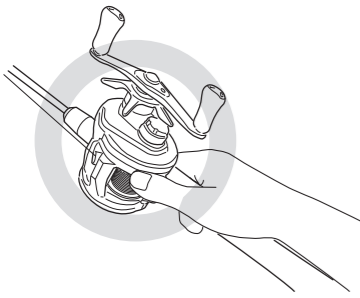
●安全上・ご使用上の注意

- ①本製品は釣具として開発されていますので、釣り以外の用途で使用しないでください。
②本製品は十分な強度基準で設計・製造されていますが、実釣時に想定以上の極端な負荷がかかるケースでは破損するおそれがあります。
③根掛かりした時は、無理に竿をあおらず糸を棒状の物に巻き付け、引っ張って切るようにしてください。竿をあおると、竿折れの原因になります。
④落下等の強い衝撃がかかること、破損する場合があります。また、竿に装着した状態で落下等、竿尻に衝撃がかかった場合にも、リールの脚部が破損するおそれがありますので十分ご注意ください。
⑤リールのファンウェイクラッチ部に注油しないでください。ハンドルが逆転し、手にあたり怪我をするおそれがあります。
⑥ドラッグ付きリールで遠投する際には、ドラッグが滑ると糸で指を傷つけるおそれがあります。必ずドラッグをよく締め付けてから投げてください。
⑦ドラッグを長時間連続使用すると、ドラッグ収納部が熱くなり火傷をするおそれがあります。
⑧クラッチを押し込んだまま、ハンドルを回さないでください。ラインがロックした状態で、クラッチを押し込んだままハンドルを回すと、クラッチ及びストッパー、ギア等の破損につながります。
⑨リールの回転部にはグリスや油が付いているので、服を汚さないようご注意ください。
⑩使用糸の径の大小、糸巻き時の張力の変化、作動クリアランスなどにより、表示巻糸量、巻糸状態に差異が生じることがあります。
⑪塗装やメッキなどの表面層あるいは素材の表面が剥がれた場合は、その部分に触れないでください。怪我をするおそれがあります。
⑫シンナー、ベンジン、アルコール、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類などの有機溶剤は、ご使用にならないでください。また、上記が手に付いたまま本機を扱うこともおやめください。本機の表面が変質したり塗装が剥がれたりするおそれがあります。
⑬弊社純正部品以外の取り付けによる不具合は保証できません。また、弊社純正部品以外の部品が取り付けられたままでの修理は場合によってはお断りさせていただきます。あらかじめご了承ください。
⑭製品改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

●キャスト時の注意 (※図は右ハンドルモデルです。)

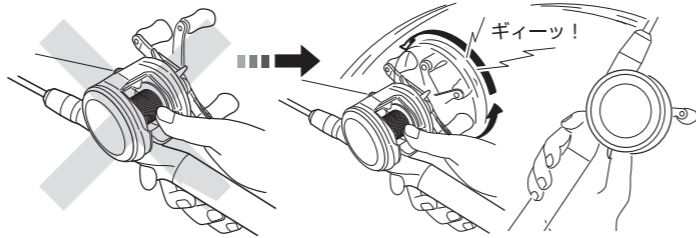
＜正しい握り方＞

ハンドルを上向き(もしくは下向き)にして握ります。



＜誤った握り方＞

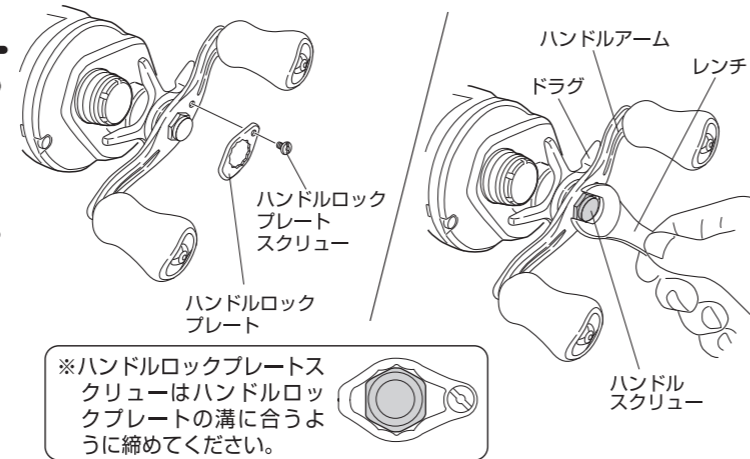
ハンドルを横向きにしてしまうと・・・



※キャストの衝撃でハンドルが回転し、クラッチが返ってしまいます。車でいえば、クラッチを切らずにギアをつなぐようなもの。最悪ギアの破損のおそれもあります。絶対にお避けください。  
※また、キャスト中にクラッチを戻さないでください。ルアーが着水してから戻さないと、ギアやボールベアリング等の破損につながるおそれがあります。  
※標準装備のハンドルより長いハンドルや、重い(大きい)ハンドルノブを取り付けると、キャスト時のクラッチ返りが起こりやすくなりますのでご注意ください。

●ハンドル交換方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

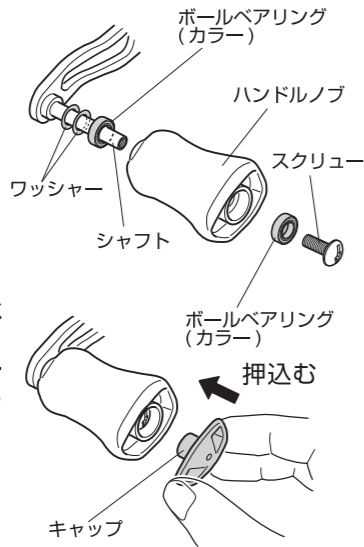
- 市販のドライバー(※)でハンドルロックプレートスクリューを緩め(反時計回り)、ハンドルロックプレートを外します。
- ドラッグを締め込み、市販のレンチ(※)を使い、反時計回りでハンドルスクリューを外します。  
(※)ダイワRCSベイトキャストグリップ純正オプションハンドルには、ドライバーとレンチを兼ねた取外し用の工具が入っております。
- ハンドルアームを外し、交換してください。
- レンチを使い、ハンドルスクリューを取付けます。強めに時計回りに締めてください。
- ハンドルロックプレートを取付け、ドライバーでハンドルロックプレートスクリューを締め(時計回り)ください。



※ハンドルロックプレートスクリューはハンドルロックプレートの溝に合うように締めてください。

●ハンドルノブ取付方法 ※Sサイズノブと互換性があります。

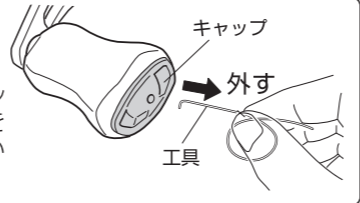
- 図のように、シャフトにワッシャー、ボールベアリング(カラー)を入れ、ノブを挿入し、残りのボールベアリング(カラー)を入れます。スクリューを市販のプラスドライバーを使ってしっかりと締め込みます。2つ目のボールベアリング(カラー)がノブに納まるよう、しっかり入れてください。  
※ハンドル側には必ずボールベアリングを入れてください。カラーを使うと、ワッシャーとの摩擦でカラーが削れてしまいます。
- 図のように、キャップを押し込んでください。



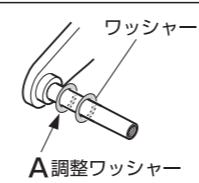
〔キャップを外すときは〕

「I型ノブ」の場合

ダイワ純正RCSオプションハンドルノブに同梱の工具を使用しキャップの穴に引っかけ外します。



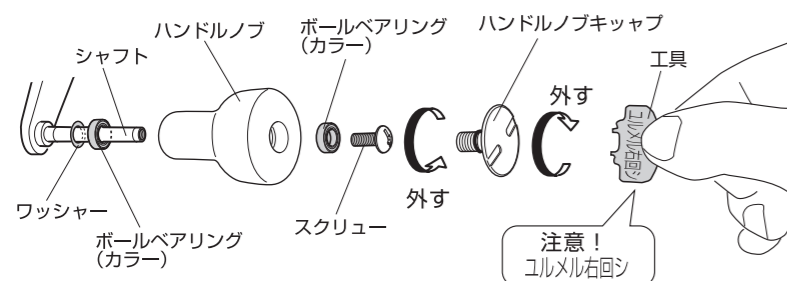
※ハンドルノブのガタが大きい場合は、ダイワ純正RCSオプションハンドルノブに付属しているワッシャーを図Aの位置に追加してください。(追加する場合、ワッシャーを入れすぎるとハンドルノブが回転しなくなるのでご注意ください。)



●ハンドルノブ取付方法

(※150Hのみ) (※Sサイズノブと互換性があります。)

- 工具(別売)を使用し、ハンドルノブキャップを時計回りに回し、外します。
- 市販のプラスドライバーを使用し、スクリューを反時計回りに回し、外します。  
※ノブを取り付ける際は、逆の手順で行ってください。



注意!  
ユルメル右回シ

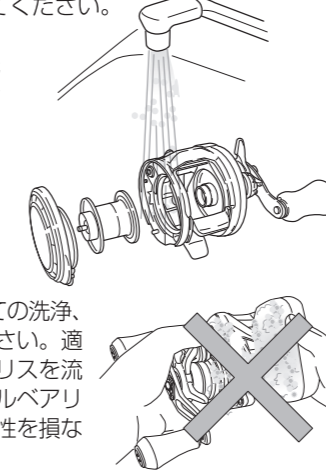
●重要! お手入れ方法

- 本製品は、精密部品で構成されています。下記の注意事項を守ってお取り扱いください。
- 錆や塩分の固着によるトラブルを防止するためにも、以下の要領で、釣行後必ずメンテナンスを行なっていただくことが重要です。但し、ボールベアリングやギア等は消耗品であり、長期間のご使用により、初期性能は低下する可能性があります。
- 本製品を未永くお使い頂くためにも、年に1度は(株)スポーツライフプラネットへオーバーホールに出すことをお勧めします。(有料)

- 推奨オイル: ダイワ純正リールガードオイル R/EV ボールベアリング用オイル
- 推奨グリス: ダイワ純正リールガードグリス
- ※市販の防錆潤滑剤等のご使用は結果的にボールベアリング・グリス等の耐久性を損なうおそれがありますので、絶対におやめください。

＜順序＞

- ①使用後は、なるべく早く水洗いしてください。摺動部や回転部に残った塩分や汚れを洗い流すためです。  
※特に海水域で使用したまま乾燥すると塩が結晶化してしまい、水洗いの効果が低下します。  
・ドラッグを締め込んでからサイドプレートを外し、サイドプレート、スプール、本体の3パーツに分け、シャワー等の真水で最低3分程度かけて、各パーツを水洗いしてください。  
・サイドプレート、スプール、本体いづれも、様々な角度から水を掛け流してください。内部に残った海水や塩の結晶を溶かして洗い流すイメージです。  
・クラッチは、オン⇄オフを繰り返しながらかよく水を掛け流してください。ハンドルやハンドルノブも回しながら水を掛け流してください。
- ②温水による洗浄やリールを水没させての洗浄、洗剤等での洗浄は絶対におやめください。適材適所で使い分けしているオイルやグリスを流出させてしまいます。結果的にボールベアリング、ギアなど重要回転部品の耐久性を損ないますので絶対におやめください。



- ・本体のウォームシャフトやレベルwind、ダイヤルが汚れている場合は、綿棒などで汚れを取り除いてください。
- ②洗浄後は、よく水を切って乾燥させてください。
- ・よく水を切るために、ハンドルやクラッチ、スプールの作動部を動かしながら行うと効果的です。
- ・海水で使用された後は、スプール外周部やフレーム内部などの水分をタオルなどでふき取ってください。乾いて塩分が結晶化すると、スプールやフレームを傷つけてしまう場合があります。
- ・ドラッグを緩め、水抜き穴を下にして陰干ししてください。また、直射日光を避けてなるべく通風のよい場所で乾燥させてください。  
※濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間(自動車のトランク、ダッシュボード等)に長時間放置されますと腐食を起こす可能性があります。
- ・内部の水分が完全に乾燥するまでは5日ほどかかります。乾燥中は、出来れば1日1回程度、ハンドルやクラッチ、スプールなど作動部を動かしてください。
- ※溶剤(シンナーなど)では手入れしないでください。
- ③以下の注油規定に則り、必ず注油してください。
- ④保管の際は、ドラッグを緩めてください。

■注油規定 ⚠ ※注油規定以外の注油をされるとリール本体に不具合が発生することがあります。

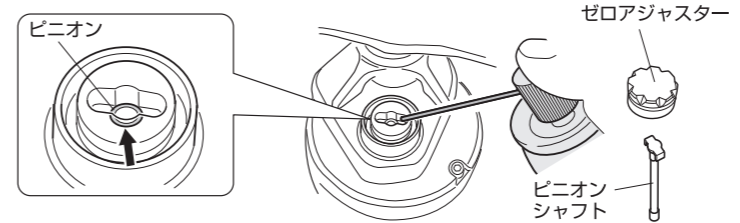
【スプール部ボールベアリングへの注油(オイル)】

- 1 サイドプレートを取り外し、裏側の中心にあるボールベアリングへ注油します。
- 2 スプールを取り外し、シャフトに付属しているボールベアリングにも注油します。  
※つけ過ぎは逆にボールベアリングの本来の回転性能を損なうおそれがあります。  
例えばボールベアリング用オイルの場合、容器を押し、オイルが表面張力でノズルから盛り上がる程度の分量が適正です。スプレーオイルの場合は、一瞬吹き付ける程度で結構です。



【ピニオンへの注油(グリス)】

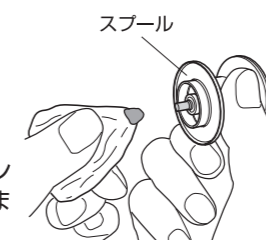
- 1 ゼロアジャスターを外し、中のピニオンシャフトをはずした上で、クラッチをOFFにしてピニオン外側面に注油します。(極少量、スプレーグリスの場合軽く一吹き程度で結構です)



- 2 ゼロアジャスターの作動が渋くなったなら、内側のOリング部に極少量グリスを注油してください。

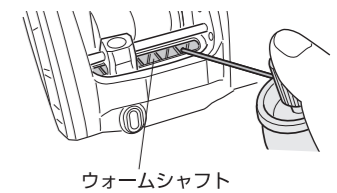
【スプールシャフトへの注油(グリス)】

- 1 取り外したスプールのシャフト両端に、グリスを付けます。イラストのように、一度、ビニールなどにグリスを吹き付けておくとうまくいきます。  
※グリス切れの状態でも長時間使うと、上記ピニオンシャフトとの摩擦で焼き付けをおこす事があります。少量を毎回注油される事をお勧めします。



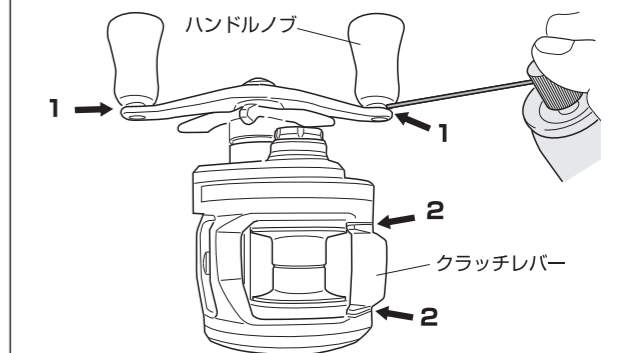
【ウォームシャフト部への注油(グリス)】

- 1 図のようにウォームシャフト部へ注油します。  
※長時間ご使用になり、汚れが激しい場合は、一度オイルを吹き付け汚れを浮かしてからウエスで拭き取り、その後、グリスを注油してください。

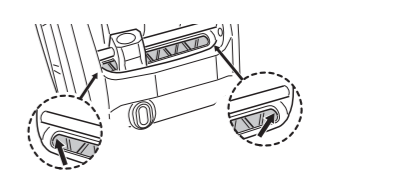


【ハンドルノブ、クラッチ、ラインガイド部への注油(グリス)】

- 1 図のようにハンドルノブへ注油します。  
※グリス・オイルのつけ過ぎは逆に本来の性能を損なう可能性があります。ご注意ください。
- 2 図のようにクラッチレバーと本体との摩擦部にも注油してください。



- 3 ラインガイドの両側の回転部に注油をしてください。



※水抜き穴への注油は絶対におやめください。  
※ギア部等リールを分解してのお手入れは、内部構造が複雑なため、おやめください。

『パーツ情報』

パーツ情報については  
【ダイワパーツ検索システム】  
よりご確認ください



『カスタムパーツ情報』

カスタムパーツ情報については  
【製品対応検索システム】  
よりご確認ください



●アフターサービスについて

本製品は当社の厳重な検査を経て出荷されたものですが、万が一、故障が生じ修理が必要な場合、あるいは部品注文の際はご購入の取扱店、または下記のお客センターまでお問い合わせください。なお、修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。

お客様センター(無料) 携帯電話からもご利用できます  
TEL 0120-506-204 【受付時間】9:00~17:00  
(土・日・祝祭日は除く)

ホームページ上からもご確認、お問い合わせできます  
www.daiwa.com/jp/

グローバル株式会社

〒203-8511 東京都東久留米市前沢3-14-16